

10月1日に国勢調査を実施します!!

一人ひとりが主役となり、 未来へつながる大事な調査です。

国勢調査は、わが国の人口・世帯の実態を明らかにすることを目的として行われる国の最も重要な統計調査で、調査員が皆さんのお宅へ調査書類を配布し、調査への協力を依頼するものです。前号に引き続き、このコーナーでは、この調査についてよく寄せられる質問にお答えします。



●個人情報保護法があるから調査に答えなくてよいのでは？

個人情報の保護に関する法律では、本人の同意なく個人の情報を第三者に提供してはならないとあります。しかし、「法令に基づく場合」は、法令で使用の目的が決められていることから、本人の同意がなくとも使用できることとなっています。国勢調査は統計法という法律に基づく調査ですので、個人情報保護から除かれています。

国勢調査を進める国・都道府県・市区町村・調査員などは、調査により知り得た情報は他に漏らしてはならない守秘義務を守らなかつたり、統計以外の目的で使用したりした場合は罰則も規定されています。調査で得た情報は統計法により秘密の保護が徹底されていますので、国勢調査にご理解願います。

●国勢調査の結果はどのようなことに役立っているのですか？

国勢調査から得られるデータは国や都道府県、市区町村の各種行政施策を進める基礎資料となるほか、多くの法令の中で国勢調査の数値によって基準が改められます。地方交付税の交付額や都市計画、防災計画、衆議院の小選挙区の決め方など、数多くの法令に影響がある統計になります。また、今回は東日本大震災後初めての国勢調査であり、震災が与えた影響や復興状況の把握、今後の防災計画策定などに活用する貴重なデータとなります。さらに、少子高齢化、社会保障、雇用政策、経済活性化、地域活性化など直面する重要課題に対して、信頼性の高い統計を提供することは、行政施策だけでなく、民間企業（将来人口・電力需要の把握など）や学術研究などの幅広い活用が見込まれることから、国の成り立ち、社会の成り立ちになくてはならない統計といえます。

～国勢調査へのご協力・ご理解をお願いします～

【注意】「国勢調査」をかたった不審な電話や訪問にご注意ください!!

国勢調査は、平成27年10月1日現在を基準として行われます。9月よりインターネット回答用ID配布のため、国勢調査の調査員が世帯を訪問しますが、皆さんに対し、電話や電子メールで統計調査の依頼をしたり、個人や世帯の情報を調査することは絶対にありませんのでご注意ください。

※但し、調査後にご回答いただいた内容の不明な部分の確認や、調査依頼をして期限までにご回答いただけない場合などは、お電話をすることがあります。

企画画財政課統計係 ☎ 53-2112

まちの戦略にももの申す!!

「住民懇談会」開催

町では、総合戦略の策定にあたり、住民の意見を広く取り入れ、内容に反映させていくため、7月24日、26日の3日間に計6回の懇談会を開催しました。いただいたご意見・ご要望から主なものを紹介します。



人口問題	企業誘致と雇用	観光振興	安全安心のまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・地方には仕事もない、あっても人材派遣ばかりの状態なのに、国のビジョンでは東京圏から6万人も地方に人を流すところがあるが、できることなのか。結婚ができないのは、原因に非正規社員が多く将来が不安だからという面がある。国が何とかするべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致は大変いいことだが、工場などが進出する際、働く人も一緒に連れてくるのを止めないと地元の雇用につながらない。 ・大河原町では昔から「町は住むところ」として職場は仙台圏に求め、インフラなど住宅地形成を行ってきた。企業誘致は、他町を見ても30〜40年で企業が入れ代わっており、どこを誘致するかよく考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町外からのお客さんに、桜以外に大河原の何を案内すればよいか困った。まちの宝探しを行うという話だが、宝物は埋まっているものと、目の前にあるものを探す目線が必要と考える。 ・他県からのかたに「大河原の美味しいものは何ですか」と聞かれたが何を紹介するか困った。食事は旅行の成否を左右するのでぜひ考えてほしい。 ・通訳など町の観光ボランティア充実を図ってほしい。せっかく見る場所があっても説明できないのでは残念。 ・地場産品を農家が集まって売れる大きな施設があればと思う。 ・食のイベントをやってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害のない町のPRをもっとしたほうがいい。また、工場誘致より住みやすさを流入させる方策を考えた方がいい。たとえば柴田郡3町でプロジェクトを作っているのか。 ・町には空き家が多いので借りて住ませれば住民が増える。町で住宅を建てても住民を増やすことを考えてはどうか。
<h3>子育て支援</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援は大切だが、行政サービスを何でも無料にするのではなく、ある程度経費はもらうやり方にすべきではないか。子育て中の親も無料が当然になり有料だと寄ってこなくなってしまう。また、ワークライフバランスについては、親の大変さ、子育て中の苦勞を企業側が理解すること、その質の向上を呼び掛けていくことが必要と思う。 ・子育ての要望が多いので、これに重点を置けば必然的に人が増える。大河原町は「住むところ」であることが最優先に整備するといいたいと思う。 	<h3>結婚促進</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけが大事で、相手のこと、地域のことには考えが及ばないから、結婚感もない人が増えた。教育の根底からやらないと少子化は変わらないと思う。 ・マスコミでは若い男性の性向を「草食系」というが、それはこれまでの育て方、育てられ方に問題がある。親が子ども会や区会に参加しないなどはその延長ではないか。人口だけでなく、人生に対する積極性を教育する必要がある。 	<h3>高齢者に暮らしやすいまち</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化や地域活性化対策のために、社会教育の充実を図ってはどうか。ただ現在の公民館は狭い。お年寄りが生き生きと暮らせるまちづくりを。町でもっと低額な老人ホームは作れないか。また、中核病院の医師等にも協力をもたらして生活支援してもらえれば、一番大事な「安心して暮らせる」町になるのではないかと。 	